

## “なぜ生理学会大会に保育室を設置する必要があるのか？”

名古屋大学環境医学研究所

男女共同参画推進委員会委員長 水村 和枝

平成15年3月に開催される生理学会大会では、大会会場内に男女共同参画推進委員会の依頼を受けて大会幹事が保育室を設置します。保育室運営に対して生理学会は経済的な援助をすることになっています。どうしてこのようなことが必要なのでしょう。育児は個人的なもので、保育室の設置・運営はそれを必要としている女性が自分たちでやれば良い、とお考えの方もおられると思いますので、ご説明したいと思います。

次回にご説明しますが、現在様々な理由から、政府をはじめとして男女共同参画の必要性が強く叫ばれています。しかし、生理学会では、女性の会員が全会員の14%を占めているにすぎません。また、生理学関連の教授職に女性の占める割合はこれよりかなり低いと推定されます。国大協は女性教員（助手を除く）の比率を20%にするという目標を掲げていますが、それをはるかに下回っている事は歴然としています。より多くの女性が生理学の研究に参入し、研究者として研究活動を持続してキャリアアップできるようにするための1つの大きなポイントは、出産・育児期におけるハンディをできるだけ減らすことです。

研究活動のなかでも学会の年次大会へ参加して自分の研究成果を発表する事は、研究に対する批判を得る上でも、研究をアピールする上でも重要である事は言うまでもないことです。また大会で他の研究者の研究を知ることが知識のリニューアル、研究への刺激を得るという点でも重要です。しかし、このように重要な大会に子供が理由で参

加できない女性研究者がかなりいるのです。平成11年に実施された生理学女性研究者の会のアンケート調査の結果では、子供を持つ女性研究者の5割が子供が理由で大会に参加できなかった経験があります。最近のような核家族化した状況では、子供を祖父母に預けて学会に出ることは難しくなっています。また、開催地でベビーシッターを個人的に頼んで学会に参加するのは、育児期にある若い研究者にとって経済的負担が大変です。ですから、学会側が保育室を設置して若い研究者を支援することが必要なのです。

しかし、これは何も女性研究者のためだけではありません。スタッフの中に出産・育児期にある研究者がいる研究室の主任の方の中には、戦力がそがれるから困る、とお考えの方もいると思います。保育室が大会会場に設置されることになればそのような心配はかなり減ります。また、まだ数が少ないかもしれませんが、育児も平等に分担・関与する、と考えている男性研究者にとっては、学会期間中も十分育児に分担・関与できるようになります。このようなことは学会の活力につながるのだと思います。

男女共同参画推進委員会は、毎年大会幹事校に保育室の設置を依頼していく予定です。今後当番幹事になられた先生方にはこのような事情をご理解いただき、積極的にご協力いただきますよう、お願いいたします。また、他の先生方にも広くご理解、ご支援をいただきたいと思ひます。